

資料B

プロジェクト課題中間実績  
(パワーポイント発表資料)



令和6年度 第1回石巻地域普及活動検討会

## 課題No.2 小ねぎ産地における次世代の人材育成

計画期間

令和5～7年度

チーム員

◎ 玉手英行、高田千春、  
今野育子、浅野裕斗



### 目次

01	課題の背景	06	活動内容①
02		07	活動内容②
03	活動の対象	08	活動内容③
04	昨年度の成果と課題	09	今後の活動予定
05	今年度の目標と活動内容		

# 01 課題の背景

桃生地区では、小ねぎの個別農家が園芸における主な担い手

## JAいしのまき 桃生スリムねぎ部会

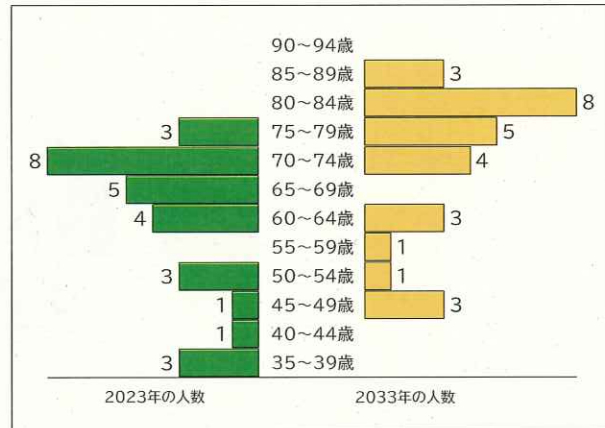
部会員数 28戸(60歳以上20人)

近年の年間出荷数量・販売額は減少傾向

10年後は高齢化が著しい…

が、これからの部会を担う  
若手もいる！

いまのうちに次世代の  
人材育成を！



スリムねぎ部会員の年齢構成

# 02 対象

対象はスリムねぎ部会青年部員 11人

50代以下の部会員と、部会員の子弟で構成  
(50代 3人、40代 3人、30代 5人)



部会の将来を前向きに捉えているが  
それぞれに課題を抱えている

### 青年部員の課題

栽培技術 労働力不足

方向性がバラバラ 経営管理

# 03 昨年度の成果と課題

活動項目	活動の様子	成果	課題
青年部員における産地の課題把握・意識醸成支援		<ul style="list-style-type: none"> <li>・意向調査に向けて意識付け</li> <li>・水産との連携に前進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意向調査の実施</li> <li>・部会としての課題の共有化</li> </ul>
青年部員の個別課題分析・解決支援		<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年部員2人は前年より出荷量増</li> <li>・重点指導者2人は自発的に改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出荷量が減った青年部員</li> <li>・経営診断の未実施</li> </ul>
栽培環境を主とした基礎的栽培技術指導		<ul style="list-style-type: none"> <li>・部会全体に減肥や土壌診断の意識が芽生えた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塩類集積した施設の改善</li> <li>・虫害（ネダ二類）への対策</li> <li>・猛暑対策</li> </ul>

# 04 今年度の目標と活動内容

- 目標
- ・産地の課題が共有化され、活性化への取組が検討される
  - ・青年部員が自身の課題を理解し、改善に取り組む
  - ・R4年実績よりも出荷量が上回った青年部員数 4人

青年部員の個別課題分析・解決支援	 聞取りによる課題把握	 伴走的に巡回指導	 部会全体への情報共有	 自発改善の促し
青年部による産地活性化に向けた取組検討支援	 選別場導入シミュレーション	 役員会・部会全体への提案の支援	 部会全体への意向調査	 意向調査結果のまとめ

05  
活動内容  
①

青年部員の個別課題分析・解決支援

副部会長の2人を重点対象に選定

Aさん(30代)

資材を多用しコスト高

- ⇒ 経費の定期的な把握を促す
- ⇒ 自らの希望で、簿記記帳指導を実施

Bさん(40代)

作業が遅れがち

- ⇒ 各種人材派遣サービスを情報提供
- ⇒ 活用に興味を示す



06  
活動内容  
②

青年部による産地活性化に向けた取組検討支援



昨年は酷暑により出荷量は大幅減

- ⇒ 国の事業と、高温対策技術を情報提供
- ⇒ 部会として事業を活用し、青年部員4人を中心に実証に取り組む

東北放送 2023.9.5 放送  
「「ビニールハウスの気温は55度以上」厳しい残暑で特産ネギの成長ストップ 出荷減で農家は苦悩」



温度計の設置



現場で結果確認



全体研修会で共有

06

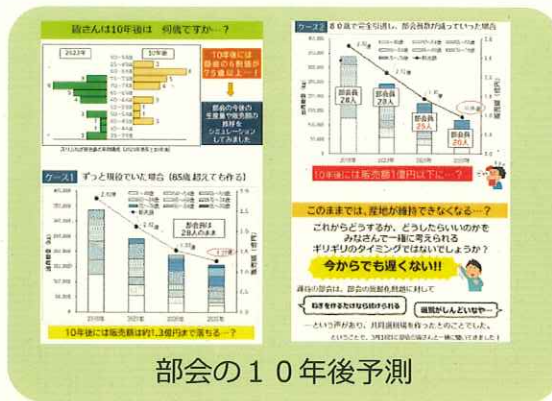
活動内容

③

青年部による産地活性化に向けた取組検討支援

部会全体に向けて資料提供

部会の将来について議論する意識が醸成された



06

今後の活用予定

活動項目	8月末までの成果	今後の予定
青年部員の個別課題分析・解決支援	A氏 自分で簿記記帳し、経営管理に意識が向く  B氏 外部労働力の活用に前向き	A氏 ・定期的な記帳の促し ・経営の自己分析  B氏 ・労働派遣サービスの活用を調整
青年部による産地活性化に向けた取組検討支援	共同選別場の導入に関心を寄せる部会員が増えてきた	・先行事例の資料提示 ・選別場に係る議論の促し





令和6年度 第1回

石巻地域普及活動検討会



# 課題No.1 産地を形成する多様な担い手のステップ アップによるいちごの産出額向上

計画期間 令和4～6年度

## 目次

- 01 検討課題概要について
- 02 課題の背景
- 03 活動内容・活動状況
- 04 活動の成果
- 05 今後の進め方



## 01

### 検討課題概要について

#### 対 象

JAいしのまき共販部会：石巻苺生産組合(16戸)、河南いちご生産組合(13戸)、  
やもといちご生産組合(7戸)

農業法人：(株)いちごランド石巻、(株)トライバリーファーム、(株)アグリ・パレット、(株)黄金ファーム、  
(株)イグナルファーム、(株)サンエイト、(株)アソラ

計画期間： 令和4～6年度

チーム員： ◎菅原克哉、片岡信幸、浅野裕斗



## 02

### 課題の背景

#### ◎石巻地域のいちごの課題は・・・

石巻地域のいちご栽培は、昭和40年代から始まり、亶理地域に次ぐ県内第二の産地となっている。

1. JA部会への技術改善と環境制御など新しい技術向上に向けた支援

○JAいしのまきで共販する3つの部会では、高齢化により栽培者数、面積、販売金額とも減少してきている。



## 02

### 課題の背景

#### 2. 各農業法人の課題改善による収益向上への取り組み支援

○震災復興事業等により先進的な栽培施設が建設され、先端技術を導入した栽培が行われているが、近年は、資材や人件費の高騰に対応した生産性の向上や規模拡大などへの取り組みが求められている。



#### 3. 新規参入者への技術向上・安定支援

○新たにいちご栽培を開始した法人

- ・令和4年産から栽培開始した(株)黄金ファーム
- ・大崎市鹿島台から移転して令和5年産から栽培開始した(株)アソラ



## 03

### 活動内容・成果の概要

◎課題解決に向けて3つのことに取り組めました。

#### 1. JA部会への技術改善と環境制御など新しい技術向上に向けた支援



環境制御技術の習得



個別巡回指導

⇒環境制御や土壌消毒方法の改善など新たな技術の取り組みを支援しにより、平均収量がR3産3.8→R6産4.1t/10aと全体に向上した。

03

活動内容・成果の概要

◎課題解決に向けて3つのことに取り組みました。

2.各農業法人の課題改善による収益向上への取り組み支援



巡回指導による課題の聞き取り



法人定期勉強会

⇒各法人が改善点や重点的に取り組む課題を見出し、個々の目標達成に向けたオーダーメイドの指導を実施した結果、3法人の販売金額はR5年産対比でプラスになった。

03

活動内容・成果の概要

◎課題解決に向けて3つのことに取り組みました。

3.新規参入者への技術向上・安定支援



黄金ファーム：品種の変更



アソラ：育苗指導



⇒基本管理の指導を継続してきた結果、収量や販売額が向上し、基本的栽培技術の習得が重要であることが認識された。

04

活動の成果

令和6年産いちごの実績 (R5年11月~R6年6月出荷)

- J A 共販部会 47.8千万円 (3部会実績)
- 農業法人 41.2千万円 (聞き取り)
- 合計 89.0千万円



◎ いちご販売金額の推移

R3年産 71.5千万円 → R4年産 79.5千万円  
 ⇒ R5年産 87.9千万円

05

今後の進め方

R7年産(R6年9月~R7年6月)の取り組み

- 花芽分化の確認の徹底
- 定植後の適切な栽培管理
- 環境制御技術の活用
- 病害虫の適期防除







No. 3

# 水田におけるばれいしよ 及びさつまいもの安定生産



令和6年度第1回石巻地域普及活動検討会

## 目次

---

- 01 検討課題概要について
- 02 課題の背景
- 03 活動内容と活動状況
- 04 活動の成果
- 05 今後の進め方

## 01

### 検討課題概要について

対象： (株) めぐいと  
(農) おおしお北部  
(農) エコルファーム

計画期間： 令和6～7年度

チーム員： ◎浅野裕斗、片岡信幸  
菅原克哉、橋本佳奈



## 02

### 課題の背景

- 水田の利用→ほ場の排水性に優劣がある。
- 大面積の栽培→作業が多く、排水対策や病害虫防除が不十分となる場合も。



収量の減少や品質の低下



- 徹底した排水対策と病害虫防除
- 連作障害防止やほ場利用効率を踏まえた輪作体系の構築





03

活動内容と活動状況



ほ場ごとの透水性調査



萌芽状況の確認と作業日程の打ち合わせ



排水対策効果確認と溝切り



現地検討会

03

活動内容と活動状況



病害虫・除草防除及び施肥指導



現地検討会



ポテト通信による  
取組状況の発信

04  
課題の成果



カットドレーンによる補助暗渠施工



二重明渠の施工

◎ほ場排水性改善に対する意識の向上



令和5年7月4日 夏疫病発生ほ場



令和6年7月4日 病気発生なし

◎徹底した病害虫対策と追肥の施用

04  
課題の成果



・収量調査結果 (普及C調査 生育が平均的な5株を調査)

法人	年度	株あたり 個数	株あたり 重量	10a換算 収量
(株)めぐいーと	R5	7個	878g	約2.6t
	R6	<u>10.2個</u>	<u>1,488g</u>	<u>約4.4t</u>
(農)おしお北部	R5	6.8個	698g	約2.1t
	R6	7個	<u>1,051g</u>	<u>約3.1t</u>

◎収量の増加

株あたり個数の増加  
収穫物の肥大が促進

## 05

### 今後の進め方

#### ・実績検討会（令和6年度産）

作付時の天候や排水対策等と収量を前作や他産地と比較しながら、令和7年度産の収量向上に向けた改善策を検討する。

#### ・輪作体系の検討

作付前の品目による収量の差異や作業体系を踏まえ、ほ場利用効率化に向けた輪作体系を検討する。

#### ・ポテト通信、現地事例集の発行

ポテト通信は今後3回の発行を予定。現地事例集を作成し、取組状況の周知と新規取組候補者の発掘に活用する。



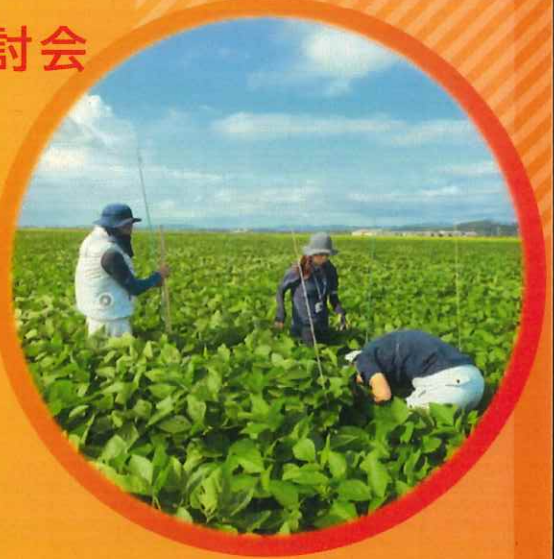


令和6年度

## 第1回 石巻地域普及活動検討会

### 課題No.4

省力化技術の活用による  
優良大豆種子の生産性向上



計画期間 令和6～7年度

### 目次

- 01 検討課題概要について
- 02 課題の背景
- 03 活動内容・活動状況
- 04 活動の成果
- 05 今後の進め方



## 01 検討課題概要について

対 象： (株) クリーンライス  
(有) 高須賀農産  
(農) アスターファーム  
(農) ドリーム真野  
(農) たてファーム・和  
蛇田集団転作組合  
(株) ぱるファーム・大曲

計画期間： 令和6～7年度

チーム員： ◎大泉武士 宍戸修  
佐藤泰久 川戸菜摘



## 02 課題の背景

### ・県内有数の大豆の産地

石巻地域では県内大豆出荷量の約22%を占めている。  
また県産大豆種子の約20%を生産している。

### ・不安定な作柄

管内大豆は令和4年、5年と気象条件や病害虫、収穫時にほ場に残る雑草、青立ち株によって収量、品質が低下する事例が見られる。

### ・手選別の負担

種子としての品質を確保するため手選別が必要。  
手選別にかかる労力・人件費が負担となっている。  
種子大豆生産に対し撤退や縮小の意向を示す生産者が出ている。



03

活動内容・活動状況

活動項目1：収量・品質向上のための栽培技術指導



・ 種子大豆播種前研修会

大豆栽培チェックシート (夏) 一注目事項		大豆栽培の注意	
項目	内容	写真	説明
①	播種前 播種機や播種機を点検したか。		40% 50%
②	播種時 土が硬いときに播種機を調整したか。		50%
③	播種時 水田の田面や溝の深さを確認したか。		50%
④	播種時 播種機が正常に稼働しているか。		50%
⑤	播種時 播種機が正常に稼働しているか。		50%
⑥	播種時 播種機が正常に稼働しているか。		50%
⑦	播種時 播種機が正常に稼働しているか。		50%
⑧	播種時 播種機が正常に稼働しているか。		50%
⑨	播種時 播種機が正常に稼働しているか。		50%
⑩	播種時 播種機が正常に稼働しているか。		50%
⑪	播種時 播種機が正常に稼働しているか。		50%
⑫	播種時 播種機が正常に稼働しているか。		50%
⑬	播種時 播種機が正常に稼働しているか。		50%
⑭	播種時 播種機が正常に稼働しているか。		50%
⑮	播種時 播種機が正常に稼働しているか。		50%
⑯	播種時 播種機が正常に稼働しているか。		50%
⑰	播種時 播種機が正常に稼働しているか。		50%
⑱	播種時 播種機が正常に稼働しているか。		50%
⑲	播種時 播種機が正常に稼働しているか。		50%
⑳	播種時 播種機が正常に稼働しているか。		50%

・ 栽培管理チェックシート  
を活用した作業確認



・ 適期作業支援

03

活動内容・活動状況

活動項目2：アグリテック活用による省力化と機械選別による軽労化（作業時間、人数等）の評価



・ 高速畝立て播種機実演会



・ 手選別にかかる聴き取り調査

### 活動項目 1

- 種子大豆播種前研修会、栽培管理チェックシートの作成・配布
  - 排水性の改良や堆肥施用に対する意識の向上
  - 作業のポイントを再確認した様子
  - 自組織の栽培に合わせたチェック項目の修正を考えている。

### 活動項目 2

- 高速畝立て播種機実演会、選別作業について聴取・情報共有
  - 導入について検討する生産組織が見られた。
  - 手選別に過大な労働時間、労働費がかかっていることが共有された。
  - 改善の必要性が認識された。

### 活動項目 1

- ◎病虫害防除、適期収穫作業の支援
- ◎栽培管理チェックシートの記帳・活用状況の点検、内容の見直し
- ◎検討会の開催

### 活動項目 2

- ◎色彩選別機で省力化をしている先進事例を視察
- ◎アグリテックや機械選別の活用によるメリットとデメリットについて整理し、研修会等で情報提供を行う。